６６－３ 京都大学霊長類研究所・日本モンキーセンター班

ア 実施日　平成１７年８月１１日(木)　所在地　愛知県犬山市　参加生徒　１年生８名

イ 実施目的

京都大学霊長類研究所及び日本モンキーセンターの御協力を得て、霊長類学の基本的な知識を学ぶとともに、施設の見学と実験に立ち会わせていただくことで、霊長類学の研究が果たす学問的な役割について学ぶ機会をいただいた。

ウ　事前打ち合わせ

７月２７日(水)に霊長類研究所を訪問し、日程等事前の打ち合わせを実施した。講義の内容と施設内の見学内容についてはメールで打ち合わせた。

エ　事前指導

参加生徒については、当日に事前講義があることもあり、配付した資料やホームページを見たりして準備しておくよう促した。

オ　研修内容

(ｱ) 事前講義（１１：１０　～　１２：００）

講義「霊長類学概論」 京都大学霊長類研究所　遠藤　秀紀教授

獣医学博士でもある遠藤教授より、教授自身が解剖学に興味をもった原体験からその後の研究生活に至る話を通して、人類の知の源泉となる霊長類学の最前線の研究の一端をわかりやすく講義をしていただいた。

遠藤教授の講義風景

(ｲ) 霊長類研究所の施設見学（１３：００　～　１４：００）

同研究所の田中正之助手の案内と解説で、第３放飼場と類人猿行動実験研究棟の見学を行った。途中、チンパンジーのアイとアユムの実験にも立ち会わせていただき、研究所での具体的な研究の様子を体験することができた。

(ｳ) 日本モンキーセンターの施設見学

（１４：３０　～　１７：００）

同センターの加藤章園長の案内と解説で、世界サル類動物園の施設見学を行った。それぞれのサルの特徴と

その生態に沿った飼育舎の設計や飼育の方法について詳しく説明していただいた。また、バックヤードともいうべき研究棟へも案内していただき、園内で死んだサルの骨格標本作製の様子を見学した。これまでの標本もすべてデータベースで管理されていることなど、動物園の果たす学問的な役割についても紹介していただいた。

実験研究棟での実験風景

エ　検証

霊長類研究所の遠藤教授が講義の中で話された「謎を知りたいという好奇心が科学の原動力である」という言葉が実感できた研修となった。生きている動物の観察や実験にとどまらず、死後もその死体を未来に残すことで人類の知の源泉となるという言葉には、遠藤教授の信念を感じた。サルを知るためにはそのすべてを知る必要がある。それが霊長類学の裾野の広さを物語っているようである。今回の研修で生徒達は大いに知的好奇心を触発され、最先端の生物学の研究への興味・関心を一層高めることとなったはずである。また、生徒達にとって初めて見る動物園のバックヤードでの職員達の仕事ぶりは、彼等の視野を広げさせたものと考える。

動物園内の見学風景